

学校の新しい生活様式をすすめる中で

校・園長 鎌田 明美

今年度の学校・園は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の中で始まりました。学校・園を安心で安全な場所にするために、文部科学省からの伝達や市教育委員会ガイドラインをもとに先生方と話し合い、感染防止対策のための学校再開マニュアルを作り、ガイドラインを保護者の皆様にも示してきました。学校・園では、「三密」（密集、密接、密閉）を避けるために、ソーシャルディスタンスを保つことをすべての活動に求められ、多人数の集会やグループでの対面する活動に制限を加えています。教室や保育室は、常に換気をしています。「マスク」「手洗い」「消毒」については、ご家庭でも心掛けてくださっていることなので、学校・園でも無理なく習慣化することができています。また、小学校では、臨時休業中の授業の遅れを取り戻すために、九月までは、四十五分授業を四十分授業にして一日一時間授業時数を増やす臨時の週程表ですすめてきました。このように、感染防止対策とともに学習活動を行い、さらに夏は熱中症にも気を配りつつ過ごしてきた学校生活は、子どもたちにとって、気を張ってがんばりすぎ、ストレスをも伴うものであったと思います。

そこで二期は、状況を踏まえつつ工夫した中で行事も実施していきたいと考え、まずは運動会を新しい形で行いました。子どもたちは、「やればできる」「本気」「コロナに負けない」をスローガンに盛り込み、練習に励みました。当日は、演技競技は学年ごととし、観覧は保護者のみ二名までという制限の中でしたが、すべての児童・園児が、自分の持てる力を出し切り感動あふれる運動会となりました。しかし、行事のなかで、修学旅行や野外活動の泊を中止したことについては、子どもたちが大変楽しみにしていた活動であっただけに、残念でなりません。日帰りの活動に変えて、有意義な内容になるように進めてまいります。今後、芸術鑑賞会（小）、生活発表会（幼）なども、工夫して安心して安全な新しい形を考えていきたいと思えます。ピッチをチャンスに変える気持ちで、子どもたちとともに取り組んでまいります。引き続き、保護者の皆様のご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。さて、今年の運動会の六年生マーチング曲「宿命」に、このような歌詞があります。

夢じゃない 夢じゃない 涙の足跡

嘘じゃない 嘘じゃない 泥だらけの笑顔

夢じゃない 夢じゃない 肩を組んで叫びたい

僕らの想い 届け！

奇跡じゃなくていい 美しくなくていい

生きがいてやってやっが光輝くから

切れないバッテリー 魂の限り

宿命ってやつを燃やして 暴れ出すだけなんだ

宿命とは、生まれもった運命という意味です。この歌には、「生まれもった運命がもしあるとしても、僕らは、魂の限りそれに立ち向かい、僕らの生きがいを輝かせ、僕らが未来を切り拓いていくんだ」という強いメッセージが込められています。主語は「僕ら」つまり「自分たち」です。子どもたちには、自分たちで新しいものを創造し、挑戦する力を身に着け、力を尽くした感動をたっぷりと味わうという経験を積み重ねてほしいです。学校・園は、それを仲間とともに実現できる場です。新しい形の中でも、新しい形の中だからこそ、子どもたちが主体となることができることを「チーム新庄小学校・幼稚園」のみんなで創りあげていきたいと思えます。これからもよろしく願います。

